



厳

冬期の川は大きく分けて2タイプあると思っけています。生き物たちの活気にあふれる川と静まり返った川。それを決める要素のひとつがサケです。秋にサケがたくさん上っていた川や、冬になっても多くのサケが上る川は長期間にぎやかです。やっぱり北海道におけるサケの存在感はすごいなあと思ひ知らされます。

美しきハンター、ヤマセミ

冬の川でよく姿を見る鳥がヤマセミ。ヤマセミは全長40センチほどの魚を主食とする美しい鳥です。サケが産卵のために川へ集まってくると、その卵を狙ってヤマメやアママスなどの魚たちも活発になります。そうすると、小魚を食べるヤマセミがやってくるというわけなんです。と言っても、私が川を歩きながらヤマメなどを探してみても、そう簡単には見つかりません。「もしかして、今年は小魚が少ないのかな？ヤマセミは来ないかなあ」と思うものの、それは要らぬ心配。変わらずヤマセミはやって来て、いとも簡単そうに魚を捕ま



トガリネズミラヴァー 六田晴洋の 私たちの ご近所さん



VOL. 9

「活気之源」



ヤマメを捕まえたヤマセミ



ホツチャレを食べにきたキタキツネ

えるのだから驚きます。一体どんな視力をしているのでしょうか。

3年連続の出会い

この冬、うれしい出会いもありました。河岸でカメラを構えていると、遠くから一匹のキタキツネが来ました。おそらくオオワシかオジロワシが水中から岸に上げたであろうサケの死骸（ホツチャレ）※北海道の方言で産卵を終えた

サケのこと）を目当てにやって来たのでしょうか。そのキタキツネを何枚か撮影してから気付きました。「あれ？このキツネ、去年も一昨年も見ただとは言い切れませんが、顔立ちや毛並みがそっくりなのです。まさか3年連続で会えるとは。野生動物が3年生きるってすごいことです。しかしこのホツチャレ、カチカチに凍っていたため食べることができません。このキタキツネは何度か噛んだ後、すぐ諦めて森へ帰ってしまいました。「そんな簡単に諦めるの？」と驚くほどあっさり。体力を無駄使いたくないそのあっさりさが、厳しい自然界を生きる秘訣なのでしょう。来年も会えたらいいな。

PROFILE 六田晴洋

ろくたはるひろ 1986年生まれ。2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。
E-mail rokuta@six-h.com